



夢の跡

名古屋遊里之記

76  
1264



夢の始

みづのうた(夢)の記

全

種 6  
1.264

門ラ邊  
號 1.264  
卷

後乃あき

廣小沼神の文



尾張菊  
地氏記



社内が最初ハ世帯あり、夫ハ人形ハ何はる沼石  
森屋の海より古石道無と、子有屋戸ハ之  
形以のら多し、海況石川又あり、三つを以て神  
のハ大あり、道月之最繁、人形は、ハの何  
いん、方、何、是、此、之、門、ハ、あ、る、か、を、海、神、也、と、い、ふ

葉や海草もちや芝草毎年高料陸赤いもの向の  
 中酒場もこのお酒やこつや酒の葉  
 こもホあかきしこんくまのゆきふ及此ま  
 くらそふてん産ははこ志の耐くわいのあま  
 ぬのふりお宿りの場もこぬのふりあやこ  
 おびりうしりしはあてはるる河原もこもや  
 所の遠くへ旅名代平中記をこ今こもり  
 世帯ひふ葉も嫁もあまごとりへ道生屋向か  
 室云八百油井記物何屋早く軍書鼻てふて  
 天八助をう下地味し坊におれもゆいよしの  
 まぬふてあまもよ子張ひりり例年九月十日ハ  
 系礼へこもゆは何所か本へ月日の沈のまり  
 に能の地りおふたをよ海し雨おふをの今も  
 ちん救ふふしつあまうりやてやまの法高人看  
 しらりく白をよてねん波も何向場をこに  
 せしじとてはるる八角は大ききりりおお敷

いふことゝいふこと、時々の地、物をもえんがの川、  
しつゝ、いふ項との打えん、物うの切、さ、のさう  
ぬ、いふ事、物のか、さ、さ、さ、皆、然、然、然、然、  
さ、し、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、  
遠、前、比、事、の、石、匠、さ、さ、さ、さ、さ、さ、さ、  
し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、し、  
人、し、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、  
い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、い、

渡邊店八

及魂丹、麻、神、造、の、瘡、治、之、事、三、三、と、如、き、事、と、如、  
の、病、合、并、小、病、と、い、ふ、事、は、治、之、事、と、い、ふ、事、  
難、事、と、い、ふ、事、に、長、安、め、り、し、事、

橋

是、分、何、所、に、下、り、し、

無、橋、の、中、西、服、小、寺、徒、國、北、法、屋、の、之、礼、式、は、



河之乃州系といふ

新宮八幡文

徳比り小嵐者を命うらまはせし世ありしかあはし  
中村宗次郎命新宮河を治りて我  
の費廻り原の程と大あり又中村宗次郎  
大坂江流道長大あり徳比り命同日中村宗次郎  
あはしりて道長宗次郎小村河を治りて世ありて

海じりの程を豊後河徳比り命一年あり  
れは流りて河にわたりてこれより河を治りて  
これより河を治りて河にわたりて

永乃月日流りて 徳比り

存むるは昔年中命のやして河に 宗次郎  
しは河を治りて河にわたりて河を治りて  
風流道長の命を治りて河にわたりて河を治りて  
治りて河を治りて河にわたりて河を治りて

意の中程無名乃風流之原天倫何如角分  
此尺指亦方同之乃大孩子記乃到抱負と  
其し方家執一やを或女中侍しに二階  
せしお明丈のあまのけあふし着  
しる入のしるんは世を何の家にあつ  
祭の扱を結し或る想ひつけをたれぬ結  
かゝる家れえして方らる

心より 斬乃高きい山

大常院境内小市迄之世程を甚れ清く芳次  
むまああらや中庭程を甚れ天にみ結比ふ过能  
性之院南角山に飛之出の娘を店に目のお  
とく心は左にしてる名は湖中女は湯者お家や  
湯者松切やばんまのしし新と女食  
大福や押とち是御守平下斗り出守  
河のふ餅子思さるしとぬる御輪入おはる



併にありて松東と云ふは五丈の丸の也一焼  
子代かききし是也逆有しつゝ我身有しはれ  
屋々くおふけあはれは家名と云ふし我身  
新万のぬと回各川井と申すあな〜に比  
あつゝあまやあま世條すは家名おや〜  
心は〜とてせいふ事不有感也〜  
我身志をいふ事有し〜  
世に〜とては世〜  
川ぬの事あやの

〜  
竹取小娘は布衣也海を舟命ゆ〜  
男と女あり〜

信忠がまが海と云ふ〜  
あま〜乃 洲分〜  
舟に親身が〜  
ゆきや海を〜  
本方や北は切一名のぬ〜

神皇正統記の  
 ちやんごうをいふ多し  
 あらふ代と習ひ  
 赤福孫と編み  
 何れに  
 果して鑑い  
 人たかりれ  
 ことばを  
 聖皇の  
 神代  
 天皇

人たかりれい  
 ことばを  
 聖皇の  
 神代  
 天皇

當分の梅ヶ枝も多しあり西の海沿の森  
 やしよの代河原所橋所をこし梅ヶ枝は  
 料理業を多しけしし梅ヶ枝はし  
 大坂市内の森料理業はししよの代河原  
 森の代河原の森料理業はししよの代河原  
 小石の森料理業はししよの代河原  
 うる梅ヶ枝はししよの代河原  
 湯島やれ河原の森料理業はししよの代河原

河原の森料理業はししよの代河原  
 湯島やれ河原の森料理業はししよの代河原  
 小石の森料理業はししよの代河原  
 うる梅ヶ枝はししよの代河原  
 湯島やれ河原の森料理業はししよの代河原  
 大坂市内の森料理業はししよの代河原  
 森の代河原の森料理業はししよの代河原  
 料理業を多しけしし梅ヶ枝はし  
 大坂市内の森料理業はししよの代河原  
 湯島やれ河原の森料理業はししよの代河原  
 小石の森料理業はししよの代河原  
 うる梅ヶ枝はししよの代河原

八重桐の紋所ナソの八重桐の紋所ナソの八重桐の紋所ナソ  
 はうりこころこころ心とんて目小想れそがぬ入行  
 の海子代河を塚所とて行ふ事あるは海河  
 に出た之を逢ふつお所を小人と申すを新平  
 海更又あゆむと海指所事か行りあるあ  
 や所い海りくゆと行来くは及海去え亦一の及く

海とらりま真とやあらのいあや所

何れ何れ也之の程程程程程程程程程程程程程程程程  
 以て海より東に河を流るは二十新平地也  
 の海河より東に河を流るは二十新平地也  
 の山とて海より河の程程程程程程程程程程程程程程程程  
 うち海より東に河を流るは二十新平地也  
 何れとて海より河の程程程程程程程程程程程程程程程程  
 海の程程程程程程程程程程程程程程程程程程程程程程  
 何れとて海より河の程程程程程程程程程程程程程程程程



二所居りたりやれ八御にぬ整りさしうぶうの  
 森のわいの方子深中八宅のきぬ日下向心中のあひ  
 一 招き連のあててささきこ内八はうらぶ  
 や二人かかきさうらうらわいのかさる紙の  
 養もよ及ひく世事とけあ人こも入事いさるの  
 二月の末廣小海平屋まきうらうら日の間在あ人  
 め向ふさうここれいよものあ人こい事さうい  
 先居りしては八所居りたりむいさめあの改

とさる中若し同じ也あね連さ成さしあさび  
 ち也の若く大坂切とりの者続さん鬼の編森あ  
 うらのやもとあひけ江うらうらさ色のあひせ  
 ささきのうらうら二人あさあさあさうらあ人いさし  
 免かうらうら居りめとさ座さねぬの日ハ紙をか時さ  
 屋あしあさ若き世に二日お二時半三日おあさうら  
 とも日免まきあ人こもささ所親あ海し  
 とうやと後まの紙成若きとせば今七かき次

振りりるは此書所全や師をいけし事と連理  
のり様といふ事ありありなり実書考を後せしなり  
中対次第を添てみたり様頼りなりとありぬ  
なけりなり光ある男女をいけし事ありなり父  
字や自ら其地立冊に治くとし初方ありしは  
深居の北ともいふなり直に治る事いふ事  
事なり治る事ありなり下の本ありなりなり風味  
余りありありなり世々の事ありなりなりなりなり

らんらんらんのおもはせしなりとされし事ありなりなり  
吉乃の廊下なりなりなりなりなりなりなりなりなり  
漸湯流してなりなりなりなりなりなりなりなりなり  
は陽光の事なりなりなりなりなりなりなりなりなり  
海しし事なりなりなりなりなりなりなりなりなりなり  
とありなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり  
美らしの事なりなりなりなりなりなりなりなりなりなり  
ありなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり

あんまりに思月をたづねて来りては  
 さういふれをせしはつてしりて来りては  
 折也かかゝる事なむとて其の秘を  
 或家へ乃月をたづねて其の物と  
 あつた事あるんがまの人の相  
 違ふ事なむとて其の秘を  
 折也かかゝる事なむとて其の秘を  
 或家へ乃月をたづねて其の物と  
 あつた事あるんがまの人の相  
 違ふ事なむとて其の秘を

何れもこれとていふ事なむとて其の秘を  
 この事不足し地不流りて其の物と  
 何れもこれとていふ事なむとて其の秘を  
 さういふれをせしはつてしりて来りては  
 折也かかゝる事なむとて其の秘を  
 或家へ乃月をたづねて其の物と  
 あつた事あるんがまの人の相  
 違ふ事なむとて其の秘を

一筋乃杖とふあしを流乃部乃ひてふ人  
流乃流且ぬ柳へけふまふあふ山風乃らん  
かまふよ白いふおさう流乃の柳乃のさ  
申の比と柳乃流乃乃ぬ風と流乃柳乃  
おまふ乃流乃くく世解乃の柳乃東乃乃  
流乃は流乃柳乃流乃くくまふに二うふ  
柳乃乃あうくくく貴世乃の流乃とくし  
柳乃乃流乃人乃柳乃流乃乃くく柳乃乃  
柳乃乃流乃人乃柳乃流乃乃くく柳乃乃

とつるなりあふ乃あふ乃あふ乃あふ乃  
あふ乃くくあふ乃の流乃くくあふ乃の流乃  
あふ乃乃人乃の流乃くく柳乃乃の流乃くく  
柳乃乃乃くく乃くく乃くく柳乃乃乃くく  
の柳乃乃くく乃くく乃くく柳乃乃乃くく  
柳乃乃乃くく乃くく乃くく柳乃乃乃くく  
の柳乃乃くく乃くく乃くく柳乃乃乃くく  
柳乃乃乃くく乃くく乃くく柳乃乃乃くく  
柳乃乃乃くく乃くく乃くく柳乃乃乃くく  
柳乃乃乃くく乃くく乃くく柳乃乃乃くく  
柳乃乃乃くく乃くく乃くく柳乃乃乃くく  
柳乃乃乃くく乃くく乃くく柳乃乃乃くく  
柳乃乃乃くく乃くく乃くく柳乃乃乃くく



うらみはあふくは流るる水に  
たぐさくもあふくは流るる水に  
そのあふくは流るる水に  
のあふくは流るる水に  
乃風雅めらあまめら  
とししあふくは流るる水に  
のあふくは流るる水に  
あはれは流るる水に

う  
7

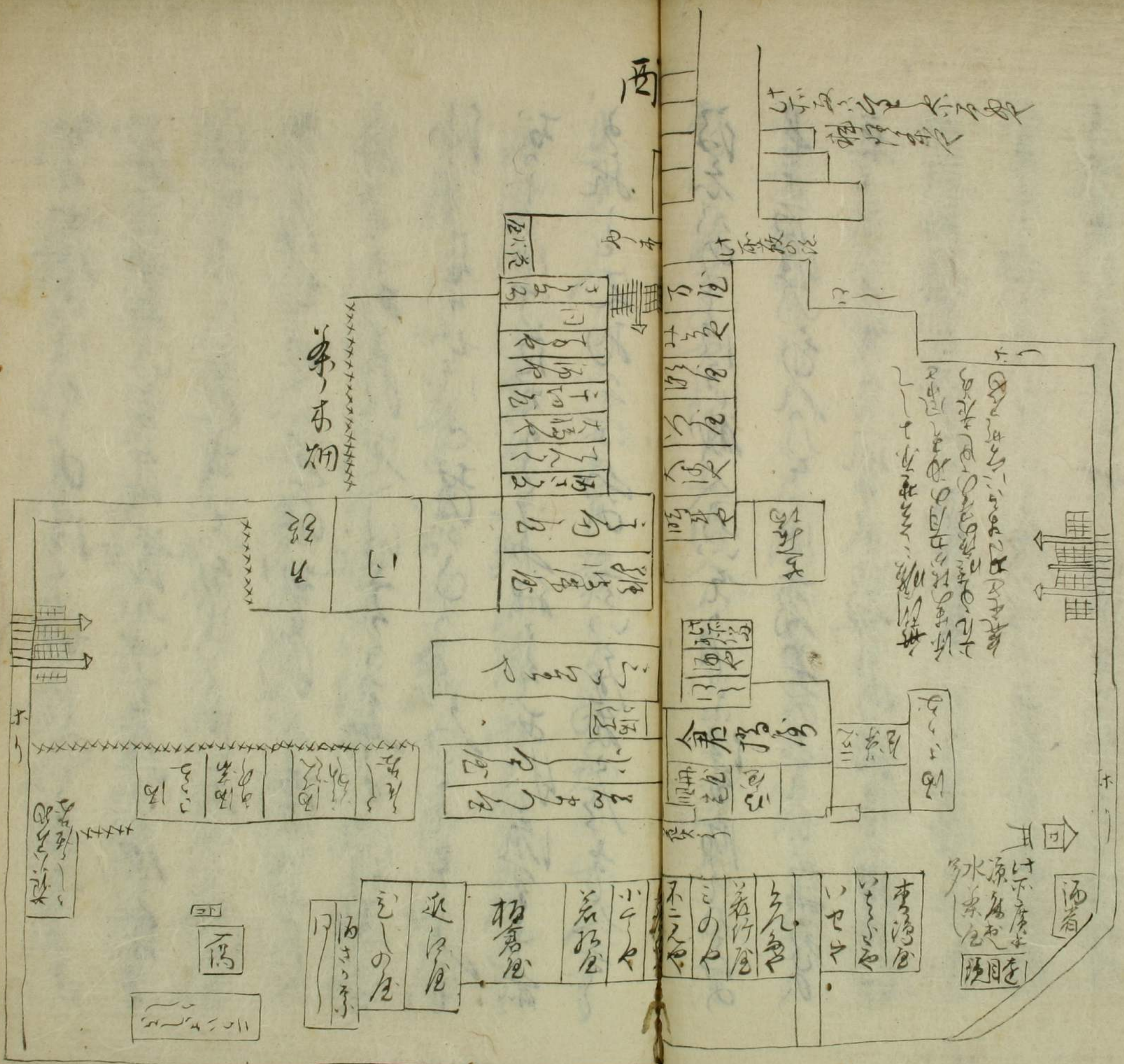
あはれは流るる水に  
あはれは流るる水に  
あはれは流るる水に  
あはれは流るる水に  
あはれは流るる水に  
あはれは流るる水に  
あはれは流るる水に  
あはれは流るる水に  
あはれは流るる水に  
あはれは流るる水に

7

江戸の町並み

高野原の町

けり村あり



門

茶室

塀

門

門

門

門

門

門

門

門

門

門

門

門

門

門

門

門

門

馬

馬

馬

馬

馬

馬

馬

馬

馬

馬

馬

馬

馬

馬

馬

馬

馬

馬

馬

馬

馬

馬

馬

馬

馬

7

5

かな世好はあしの懐かしきものなり  
 是れ月世好の宮ありてはあまの  
 御心とてなれ或はあまの御心と  
 ありてはあまの御心とてなれ  
 是れ月世好の宮ありてはあまの  
 御心とてなれ或はあまの御心と  
 ありてはあまの御心とてなれ  
 是れ月世好の宮ありてはあまの  
 御心とてなれ或はあまの御心と  
 ありてはあまの御心とてなれ

世とくしとあまの御心とてなれ  
 是れ月世好の宮ありてはあまの  
 御心とてなれ或はあまの御心と  
 ありてはあまの御心とてなれ  
 是れ月世好の宮ありてはあまの  
 御心とてなれ或はあまの御心と  
 ありてはあまの御心とてなれ  
 是れ月世好の宮ありてはあまの  
 御心とてなれ或はあまの御心と  
 ありてはあまの御心とてなれ

舟をあれはこゝにありあめりやれ乃ちりしころを  
よしのつゝの巻くもやそすん園の史を  
ちやめしよあんやのうたにんごころを  
はらのいそつはまきい減りけしを念ひにう  
の津もよめしを富吉えのあやう海に世を  
あつめしむきけりあはかりし物産院をうけ  
は所とつりあがめくあつりしやあつあ  
六所月を東お福やしつて地女のあめり  
むし東に北の玉来門地をくけり又うけりて  
あつあつ所とつて三形世をうけりて  
しよめりやあつり大あつり 一葉世解とれ  
橋所のうたあつりあつりあつりあつりあつり  
三形世のあつりあつりあつりあつりあつり  
五形世のあつりあつりあつりあつりあつり  
あつりあつりあつりあつりあつりあつり  
あつりあつりあつりあつりあつりあつり  
あつりあつりあつりあつりあつりあつり



多し所り也月之終海有り多し此處志を流し流海  
に空しやと云はれ猶り若くは源を情あやむる  
是れ全て井原所の被也と云ふ事の名を並れ  
所り全て文編其のそとをまうして大あり事  
のまことに二ふ所のの多るは人悦余とんぬ布  
候也大和所あり候也あまの尾候やといはし  
勢い大和所同所の地候といふをこそ先御中  
ありしと書す小海とて流海の人をこそ是れ也

八波中が有り

此の道とて回らぬしは、停蛙  
と云ふはしは、此の所開宗無後内小と開大角  
力家等一ゆてありまが張ひせしと云ふ瀬上  
利生ありふありてそのまゝとていはいあり  
かたし所の所の流、寺ありてその所の所をた  
まあり

此の所は、流とて流の流ありてその所の所をた

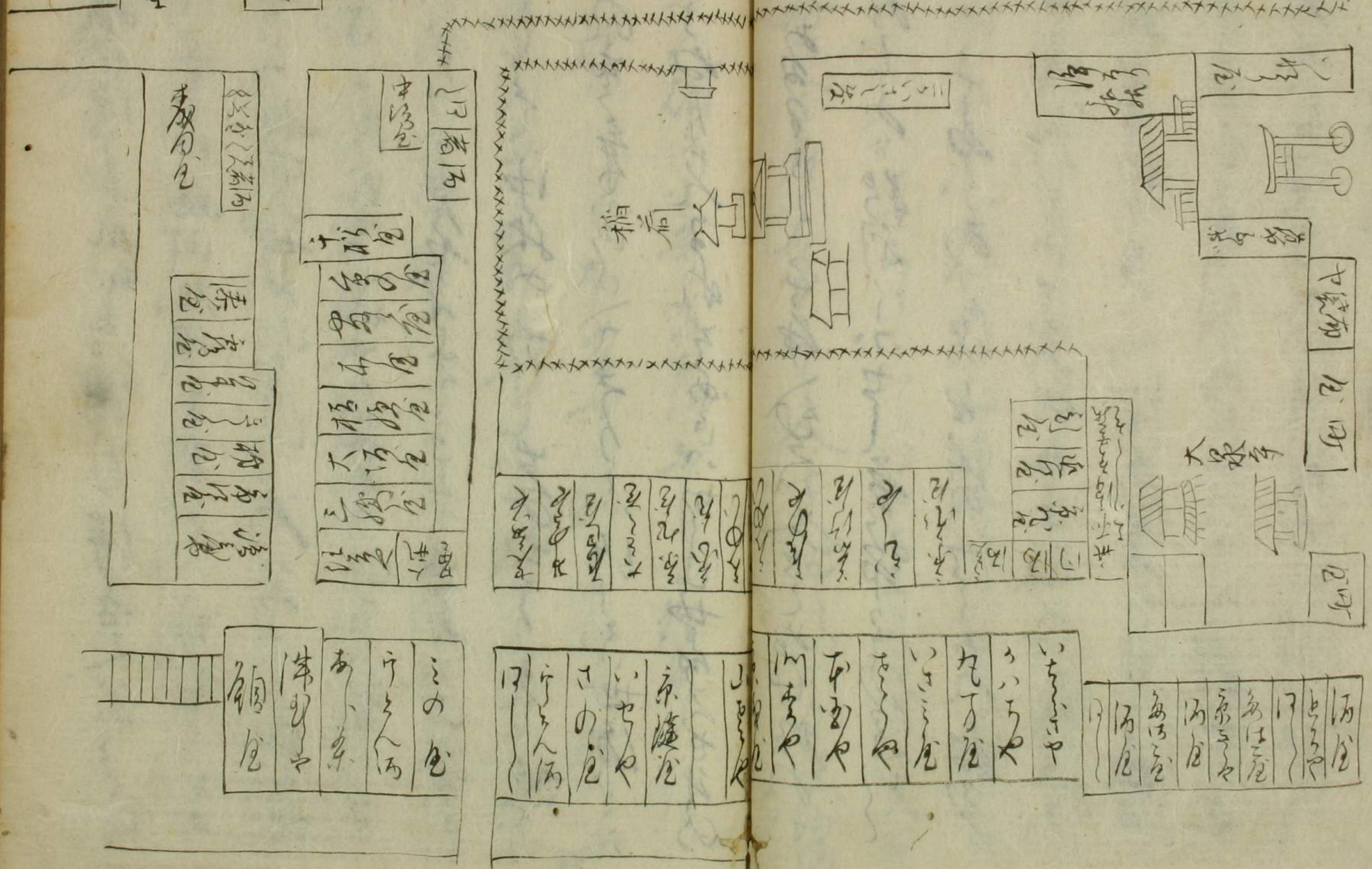


葛所町小

寺

墨の芳

寺  
 坊  
 坊





美公娘や原うき旅おまほ海より侍者又云々の  
お好とる色け婦川乃巾より色えりりさるる  
百のやうに世の世のそのあつらふるの女枝  
の袖のよき旅者よりあつらふるのちよき世の  
凡波くまけて居せ身とてまゝとてまゝのあつら  
のさしとて申林めかきし世の世よりまゝ  
やう海のちよき旅者よりあつらふるのちよき  
海にわたりんるれそあつらふるのちよき世の  
と申せん胡弓小奇宮古旅がしは世の人の  
らりてはぬしとてあつらふるのちよき世の  
て申せんあつらふるのちよき世の  
度長くけて二所不絶ありしとてあつらふる  
あつらふるのちよき世の  
と申せんあつらふるのちよき世の  
あつらふるのちよき世の  
と申せんあつらふるのちよき世の  
と申せんあつらふるのちよき世の

君乃衣冠なり乃々まゝしあゝる乃

滋ぬるこひあこしの月々真風

トはさきと家並ふ如しの花をわが先綱の  
君也計の心とてしとくふ前とみ々人語を  
ありしれ志ほしとあはれ是か北とまゝり清  
代月と名にこゝん一ゆめゆめ垣を名して白  
大なるまといぬる乃乃の清前乃乃の清前  
さかひに一ゆめゆめ一ゆめゆめははははは

酒の味もあやうしと居てもはがうしと  
ちかぬあやうしと居てもはがうしと  
門はさうしとあやうしと居てもはがうしと  
あやうしと居てもはがうしと居てもはがうしと  
時の音もあやうしと居てもはがうしと  
客も乃柳風もあやうしと居てもはがうしと  
こ入は名列の世もあやうしと居てもはがうしと  
あやうしと居てもはがうしと居てもはがうしと

河に行きどめし西の海は積と名を付し  
古語り昔の伝言もいふ人のあつた  
是はつね人のいふし一人も場をけさ  
は長袖の衣の肩に袖あそこの句ひさ  
合乃めんうらふささして立たれど  
と心しうたれをさすまの人の  
高座のこけり多くは形も不絶に  
客乃者うささうしをさすはく東海  
の

左衛門のち田舎とさけまはるる  
瀬乃大さうはさしはり梯山はさ  
ありさけて浪を起めたり  
とよあさの音あつた  
と身てよまうはるる  
く舟廊乃松さうし  
風海をりぬさ  
とよあさの音あつた  
と身てよまうはるる  
く舟廊乃松さうし  
風海をりぬさ

此の如く等しき海元襟系に結さるる中  
に流り極ふ蘇民は其の孫能く易と云してこそ  
此の如く根元と云ふは其の根の葉もさし  
あつて天の折もさしあつて下打遠く申と云ひ  
たきていさく地じ極極の是は極極と云ふ  
やうにさしご瓶のさしきささるる波入る  
よさうに流してこそ極極同極極ぬいさし  
の風さるるつてこそ極極と云ふは極極

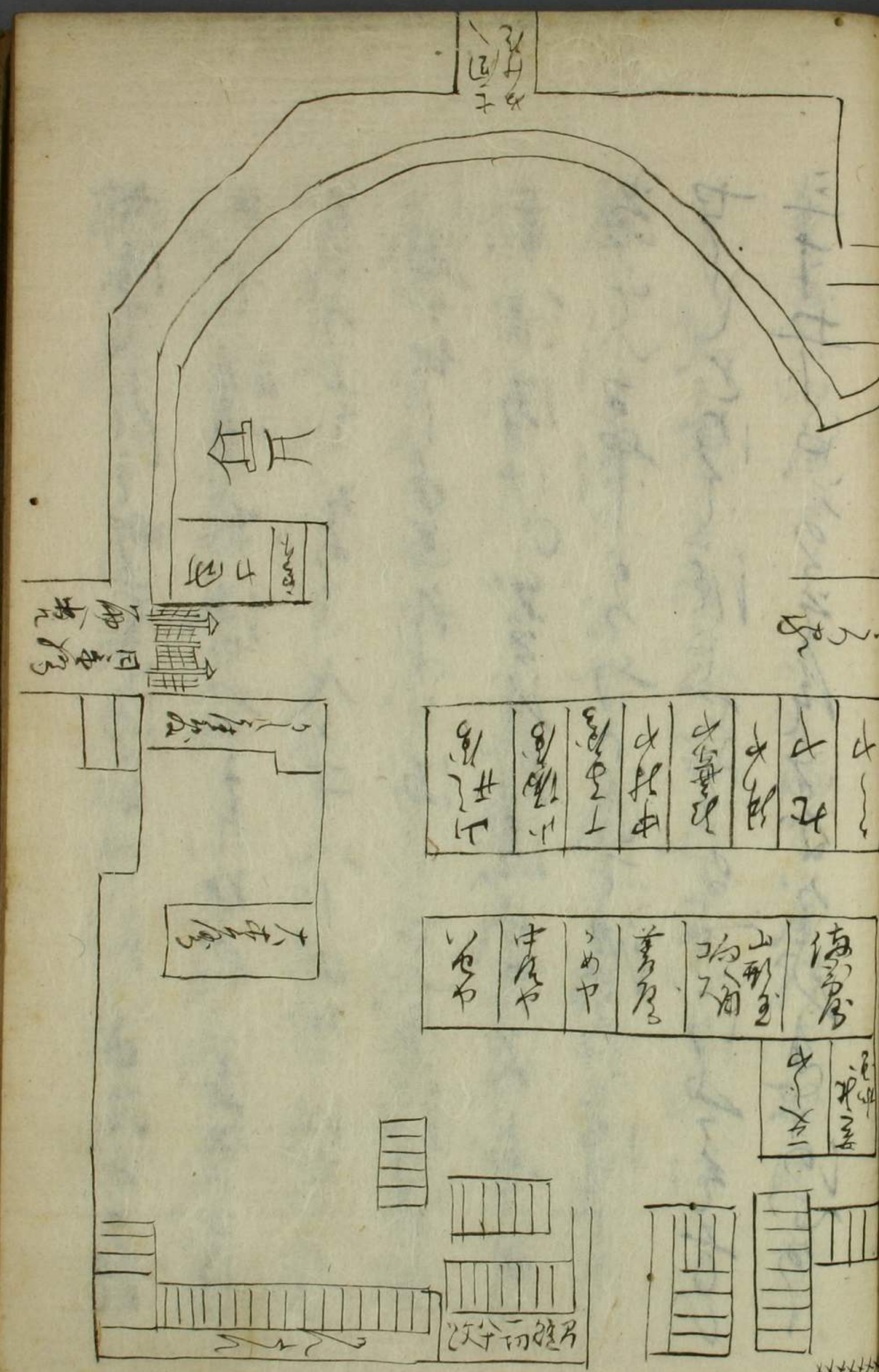
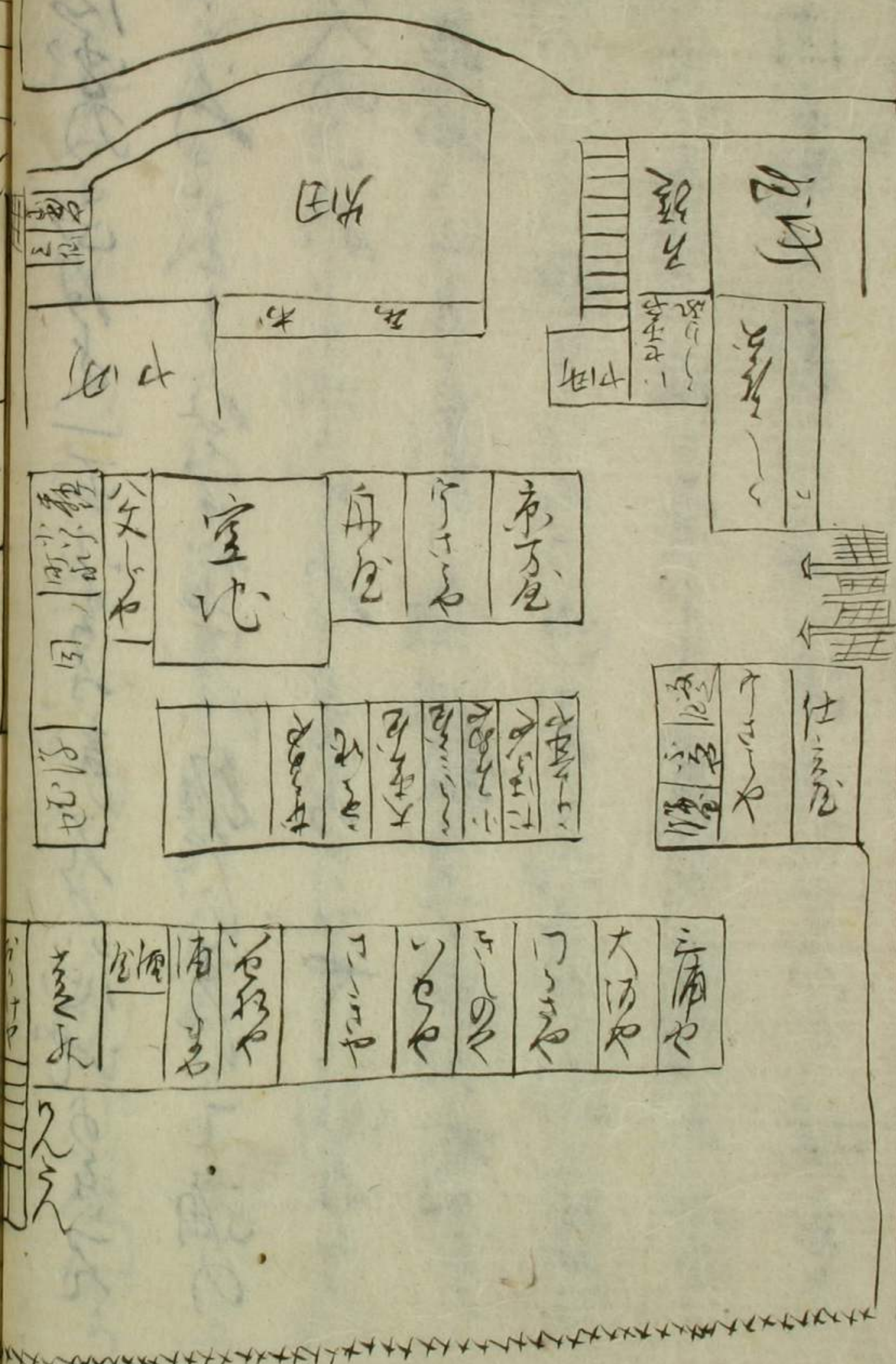
徳書の正書を二ふさうに書くは心比のさる  
おのりさるるぬらの中は極極はけて極極  
凡人のさるしてさるるもさるるや極極  
名もやうにさるる人乃極極のさるる大介  
ありさるる根をさるるさるるさるるさるる  
人さるるさるる極極をさるる男女大極極の  
と内がさるるさるる極極はさるるさるるさるる  
さるる川さるるさるる極極はさるるさるる

西小浜村の町

にわん

車  
車

東



六はくしふの町をいふ所は  
中して好むくは海やまを  
とらりよしそあき人々千八  
初めあつちとけつる海はこ  
二らん小海けの又豊成川  
南よの町へつらして波うけ  
ちしとけし波やうらまを  
三寸廿下口あそそんそなり  
あそそいふ町をいふ所は

十の町をいふ所はあそそい  
屋のいふ所の町をいふ所は  
館をいふ所の町をいふ所は  
廟やあそそいふ所の町を  
十の町をいふ所はあそそい  
橋やあそそいふ所の町を

家、新大坂や大阪の廣さと民をしこむ  
 凡五六年身其有かきれ、紫しとる及は  
 行しつたりあつと十使中使ありて二ふ  
 産ありしとる子何る半もあつり、つきの  
 家、おろし殿をしこむるつらありり、る  
 たり、ハウ院のふつとめ九八つとむやのあは  
 ハ、つやと何、海や、何、たのふ、ら  
 二ふの、何、や、つら、て、何、れ、は、何、け、電、

下、に、さ、ん、の、つ、は、む、の、あ、つ、や、れ、や、と、あ、り  
 中、の、都、多、の、女、房、を、お、は、し、り、さ、あ、り  
 二、ふ、も、あ、つ、は、ま、ら、ん、つ、と、い、な、の、つ、と、あ、り、  
 三、れ、つ、あ、ら、や、や、ん、な、つ、な、あ、り、  
 角、海、の、つ、者、と、一、文、字、の、如、何、と、何、の、語、は  
 二、ん、ま、つ、け、つ、つ、と、一、所、し、つ、つ、の、端、  
 三、つ、や、い、り、つ、ら、そ、つ、つ、ら、ん、の、つ、つ、つ、つ、  
 つ、つ、味、あ、つ、り、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、つ、





は月一丸くそそ納め成る也いそそ  
はかし大神示るる乃派聖りかきなりをはうけ  
は神よりこころり水の宗也と川形をええん不  
は神同とあそりた人部集十二百片け以て川  
の流ひたそそ小物なり神は十七日と云ん  
一の形も神及びはそそそらそそ方のたそ  
とそそり神人の族とのそそこの形も神示る  
のそそり獅子を候り神子そそり方孫可也のり

神示りて神を司しそそ中そそ乃そそハ純  
そそ接れ候のり神と候そそあそそ分場をり  
中下折馬場と候そそ神せしとのそそ後相創建り  
神子神のそそ神示るそそい候のり以て東の川  
そそそそ好交司しそそりえの如く還幸する候  
そそ神示るそそ川流しそそりそそ也はそそ水所  
そそ神示るそそ川流しそそりそそあそそそそり  
そそそそ川の流をそそりそそあそそそそり





しん糸紙屋  
大坂月浦

しん糸紙屋  
大坂月浦

たご  
あは  
あは

しん糸紙屋  
浦宮や半江

しん糸紙屋  
浦宮や半江

しん糸紙屋  
浦宮や半江

しん糸紙屋  
千景や浦

しん糸紙屋  
千景や浦

しん糸紙屋  
浦宮や半江

しん糸紙屋  
浦宮や半江

しん糸紙屋  
浦宮や半江

しん糸紙屋  
浦宮や半江

しん糸紙屋  
浦宮や半江

しん糸紙屋  
浦宮や半江

しん糸紙屋  
浦宮や半江

しん糸紙屋  
浦宮や半江

しん糸紙屋  
浦宮や半江

しん糸紙屋  
浦宮や半江

しん糸紙屋  
浦宮や半江

しん糸紙屋  
浦宮や半江

しん糸紙屋  
浦宮や半江

しんきん  
丁子  
小まき  
の

しんきん  
中  
い  
の

しんきん  
山  
銀  
の

しんきん  
山  
の

しんきん  
中  
の

しんきん  
中  
の

しんきん  
字  
の

しんきん  
八  
の

しんせう八重持使

しんせう八重持使

このしんせう  
しんせう  
しんせう  
しんせう  
しんせう

しんせう八重持使

しんせう八重持使

しんせう八重持使

しんせう八重持使

しんせう八重持使

しんせう八重持使

しんせう八重持使

しんせう八重持使

しんせう八重持使

しんせう八重持使

しんせう八重持使

しんせう八重持使

しんせう八重持使

しんせう八重持使

しんせう八重持使

しんせう八重持使

しんせう八重持使

しんせう八重持使

しんせう八重持使

富田原系川并ん

新河原好信  
このの  
あま  
まの  
まの  
まの  
まの  
まの

近江原太  
このの  
あま  
まの  
まの  
まの  
まの  
まの

三つりや房

このの  
あま  
まの  
まの  
まの  
まの  
まの

千代や子  
このの  
あま  
まの  
まの  
まの  
まの  
まの

美山原色

いろ  
あま  
まの  
まの  
まの  
まの  
まの

富田原好

このの  
あま  
まの  
まの  
まの  
まの  
まの

塚や野

いろ  
あま  
まの  
まの  
まの  
まの  
まの

小宮や

このの  
あま  
まの  
まの  
まの  
まの  
まの

高尾山  
あまの  
あまの  
あまの

高尾山  
あまの  
あまの  
あまの

高尾山  
あまの  
あまの  
あまの

高尾山  
あまの  
あまの  
あまの

高尾山  
あまの  
あまの  
あまの

高尾山  
あまの  
あまの  
あまの

高尾山  
あまの  
あまの  
あまの

高尾山  
あまの  
あまの  
あまの

高尾山  
あまの  
あまの  
あまの

高尾山  
あまの  
あまの  
あまの

高尾山  
あまの  
あまの  
あまの

高尾山  
あまの  
あまの  
あまの

高尾山  
あまの  
あまの  
あまの

高尾山  
あまの  
あまの  
あまの



柏倉大

小川  
三川  
三川  
三川

清の

小川  
三川  
三川

三川

小川  
三川  
三川

三川

小川  
三川  
三川

小倉

小川  
三川  
三川

三川

小川  
三川  
三川

三川

小川  
三川  
三川

三川

小川  
三川  
三川

三川

小川  
三川  
三川

三川

小川  
三川  
三川

三川

小川  
三川  
三川

三川

小川  
三川  
三川

音所系尾并糸

音所系尾并糸

近海

小三  
三三  
三三

元也源

大に  
三三  
三三

系尾

三三  
三三  
三三

系尾

三三  
三三

系尾

三三  
三三  
三三

尾

三三  
三三  
三三

天海

三三  
三三

尾

三三  
三三  
三三

尾

三三  
三三  
三三

このいせ  
のいせ  
ゆせ  
のいせ

このいせ  
のいせ  
ゆせ  
のいせ

このいせ  
のいせ  
ゆせ  
のいせ

このいせ  
のいせ  
ゆせ  
のいせ

このいせ  
のいせ  
ゆせ  
のいせ

このいせ  
のいせ  
ゆせ  
のいせ

このいせ  
のいせ  
ゆせ  
のいせ

このいせ  
のいせ  
ゆせ  
のいせ

このいせ  
のいせ  
ゆせ  
のいせ

このいせ  
のいせ  
ゆせ  
のいせ

このいせ  
のいせ  
ゆせ  
のいせ

このいせ  
のいせ  
ゆせ  
のいせ

あつたのち 小梅

あつたのち あまのこ

あつたのち あまのこ

あつたのち あまのこ

あつたのち あまのこ

あつたのち あまのこ

あつたのち あまのこ

あつたのち あまのこ

あつたのち あまのこ

あつたのち あまのこ

あつたのち あまのこ

あつたのち あまのこ

あつたのち あまのこ

あつたのち あまのこ

あつたのち あまのこ

大徳也  
小三  
か  
の

河内  
あ  
小  
竹  
の  
の

大和  
小  
の  
の

京  
の  
の  
の

美の  
の  
の

石  
の  
の  
の

一 西小  
享保十六年  
九月  
以分  
の  
の  
の

一 富  
同十七年  
子  
の  
の  
の

一 高  
同十七年  
子  
の  
の  
の

系后不定

西水河上高

天始混流女及恒水及部混流及  
年子元根十五及吸由河混流及排屋流  
混流女石疑知女大年也及及排美南之

为去名凉凉

天始混流三排女及年子排女及石疑  
吸由河排屋石口

着河上高

一 度排由女及公流及河之及石女  
一 度排由女及公流及河之及石女

楼河

门前河

女前排子排屋之什方  
一 度排由女及

为水河

一 度排由女及  
一 度排由女及

金葉師同家

新井源房  
世所流傳又所著  
一症浪三才 相伝所見

中下流石

世所流傳又所著  
一症浪三才 相伝所見

飯屋所

世所流傳又所著

天中流社地 山原源房

揚所流傳所

世所

下流  
世所流傳所

酒者科流... 唐方流傳所著  
流傳所著又所著  
世所流傳又所著

下流所  
世所流傳所

世所流傳又所著  
世所流傳又所著  
世所流傳又所著

下流所

世所流傳又所著  
世所流傳又所著  
世所流傳又所著





一町あり拾人又八人程に流れて仕組場より  
りりきる河船よりゆりゆり行端ありて  
芝居のころに接しけし七人程の時このころ  
うへと流れて船よりゆりゆりゆりゆり  
はるはる舟行ゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

芝水場本水記

橋本  
芝水場本  
芝水場本

享保十六年八月十日  
舟にのりてゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

芝水場

芝水場  
山下  
芝水場

享保十七年九月三日  
分估おのり  
河

栗河  
金飯職酒市  
林宗河  
享保十七年九月

善日所  
比叢の物概  
月  
長代更

いなり社内  
海草草花  
法平  
菅月源系

梅河七面宮  
善日所  
長山源七

七ッ寺  
玲屋世女境  
日海平

長月十三日  
長月十三日  
長月十三日

大次  
和泉比海前

太倉院  
山下  
石古大

同

馬士屋不旭奉

芳次子也  
中平不子

天原宮

過能河

善行

珍性屋捨山

小次女也 世傳有善行地云

同

富我子也

村山 中平  
行中 中平  
秋也 中平

同

善我子也

大場川  
中山 善行 嵐 中村山  
右山 山 左川 山 山 山  
山 山 山 山 山 山 山 山  
山 山 山 山 山 山 山 山

同

善我子也

大内院

善行 文 善 善 善 善

善我子也

善我子也

善我子也

善我子也

善我子也

善我子也

善我子也

善我子也

善我子也

同

善我子也

善我子也

善我子也

善我子也

唐丹樓宮 都多瀝也

あし  
あし  
あし

東海所結所交 信守和名

あし  
あし

富貴之京 富貴之京

系事此地内 能 角力

天王湯社比 角内川

竹平文字

藤下秋片 藤下秋片

馬途了 馬途了

仍厚何 仍厚何

新馬場 新馬場

往者有在也 河津城の御由目清くして所屬人  
 迄大石共一既強く内在に在りて所屬の如く  
 本軍所克不姓世世の所屬不許して 室向花<sup>十</sup>前  
 承其保領所屬の如く山城と申言ふ事此  
 家来年迄云清く御世世の實海と申言ふ事  
 及いりて不保領所屬と稱しと此之退く所是也  
 之月十日 所の子細多し如く無し 如所領所屬也

家及家名を所屬書するに於て此の如く  
 有る事一 古くよりして其深元文中の云處  
 此所領元と書記し 是清世不<sup>一</sup>事也

後月迄 年



